

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 5 部門第 1 区分

【発行日】平成20年10月9日(2008.10.9)

【公開番号】特開2002-180903(P2002-180903A)

【公開日】平成14年6月26日(2002.6.26)

【出願番号】特願2001-260797(P2001-260797)

【国際特許分類】

F 0 2 K 1/04 (2006.01)

F 0 1 D 25/30 (2006.01)

F 0 2 C 7/00 (2006.01)

F 0 2 K 3/06 (2006.01)

【F I】

F 0 2 K 1/04

F 0 1 D 25/30 D

F 0 2 C 7/00 B

F 0 2 K 3/06

【手続補正書】

【提出日】平成20年8月25日(2008.8.25)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 排気を排出するための排出口 28、30 と、前記排出口に隣接し円周方向に間隔を置いて配設された複数の短形状翼形部 34 とを含むことを特徴とするガスタービンエンジン排気ノズル 18、22。

【請求項 2】 前記翼形部 34 が、空気力学的に流線型であり、また、渦を発散するように鋭角の迎え角を有することを特徴とする請求項 1 に記載のノズル。

【請求項 3】 前記翼形部 34 が、根元部 40 から先端部 42 までのスパンをもって延び、前縁 44 から後縁 46 までの翼弦をもって延びる対向する正圧側面及び負圧側面 36、38 をさらに含み、また、前記負圧側面が、前記後縁に沿って前記渦を発散するように形成されていることを特徴とする請求項 2 に記載のノズル。

【請求項 4】 前記翼形部スパンが、排気の局所的な境界層の厚みと実質的に等しい大きさにされていることを特徴とする請求項 3 に記載のノズル。

【請求項 5】 燃焼排気 20 を排出するための排出口 30 と、

前記排出口に隣接して円周方向に間隔を置いて配設された複数の短形状翼形部 34 と、を備え、

前記翼形部の各々は、対向する正圧側面及び負圧側面 36、38 を含み、該翼形部の正圧側面及び負圧側面が、根元部 40 から先端部 42 までのスパンをもって延び、かつ、前縁 44 から後縁 46 までの翼弦をもって延び、前記負圧側面が、前記後縁に沿って渦を発散させるような形状であることを特徴とするコアエンジン排気ノズル 22。

【請求項 6】 前記翼形部 34 が、前記排気に渦を発散させるように内向きに延びることを特徴とする請求項 5 に記載のノズル。

【請求項 7】 前記翼形部 34 が、空気力学的に流線型であり、渦を発散させるように鋭角の迎え角を有し、前記翼形部スパンが前記排気の局所的な境界層の厚さと実質的に等しい大きさにされていることを特徴とする請求項 29 に記載のノズル。

【請求項 8】 ファン空気 16 を排出するための排出口 28 と、

前記排出口に隣接して円周方向に間隔を置いて配設された複数の短形状翼形部 3 4 と、を備え、

前記翼形部の各々は、対向する正圧側面及び負圧側面 3 6、3 8 を含み、該翼形部の正圧側面及び負圧側面が、根元部 4 0 から先端部 4 2 までのスパンをもって延び、かつ、前縁 4 4 から後縁 4 6 までの翼弦をもって延び、前記負圧側面が、前記後縁に沿って渦を発散させるような形状であることを特徴とするファン排気ノズル 1 8。

【請求項 9】 前記翼形部 3 4 が前記排気中に渦を発散させるように内向きに延びることを特徴とする請求項 8に記載のノズル。

【請求項 10】 前記翼形部 3 4 が、空気力学的に流線型であり、渦を発散させるように鋭角の迎え角を有し、前記翼形部スパンが前記排気の局所的な境界層の厚さと実質的に等しい大きさにされていることを特徴とする請求項 9に記載のノズル。